

(3) 子どもの人権を尊重し、豊かな個性を育むまちづくり

統計資料

- 平成12年からの20年間で、年少人口が179人増加し年少人口比率は10%増加しています。
- 第二大山崎小学校の児童数は、令和元年の233人から令和6年にかけて80人以上増加し、315人となっています。
- 放課後児童クラブに入所している児童の数は、令和元年の208人から、令和5年にかけて30人近く増加し235人となっています。

アンケート調査

- ~~小学校就学後の放課後の過ごし方について、小学校低学年での希望として「放課後児童クラブ(学童保育)」と答えた就学前児童の保護者は6割を超えています。~~放課後の過ごし方について、就学前児童の保護者では、子どもが小学校低学年時に「放課後児童クラブ(学童保育)」で過ごさせたいという意見が6割を超え、小学校高学年~~での希望は~~においては、「放課後児童クラブ(学童保育)」は約3割となっています。
- ~~平日の小学校終了後の時間の過ごし方では、「自宅」と答えた小学生児童の保護者の割合が最も高く6割を超えており、次に「放課後児童クラブ(学童保育)」の割合が高く、4割を超えています。~~
- 遊び場で困ること・困ったことについて、「雨の日に遊べる場所がない」と答えた就学前児童の保護者の割合は7割近く、「遊具などの種類が充実していない」「思い切り遊ぶための十分な広さがない」が、それぞれ約3割、約2割となっています。

庁内検証・前回計画の施策評価

- ~~虐待の未然防止、早期発見に向け、妊婦や子育て家庭を対象とした相談や訪問を実施し、必要に応じて関係機関での情報共有を行うなど早期解決のために取り組んでいます。~~
- 町立小中学校において、少人数教育をはじめ指導体制を工夫するほか、支援が必要な児童生徒においては個々のニーズに応じた教育指導計画の作成や~~適応指導教室の実施~~など、児童生徒一人ひとりの実態に合わせた支援や指導を実施しています。
- ~~町内の各放課後児童クラブ施設の適切な維持管理や必要面積の確保、施設周辺環境の安全性向上のための取組を実施しています。~~
- 年間を通して平日及び学校休業期間中に各小学校において「放課後子ども教室」(放課後マイプレイス事業)を新たに開始し、児童の放課後の更なる充実に努めています。
- 町内の保育所・幼稚園児童と小学生の交流事業を実施し、子ども同士のふれあい機会創出とともに職員同士の関係構築と連携体制の強化を図っています。

放課後児童クラブの利用者数の増加による大規模化の中で、子どもが集団になじむことができ、安心して過ごせる居場所を提供するために、指導員の資質向上や状況に応じた活動内容の見直しなど、指導体制の更なる充実が求められます。

また、町の施設等を活用し、子どもの遊び場や活動場所の確保や多様な体験プログラムの充実などにより、子ども一人ひとりが個性や能力を伸ばすことができる環境づくりが必要です。

さらに、子どもの人口増加により、子どもや家庭が抱える課題の多様化に拍車がかかる中、一人ひとりに応じた支援・指導体制を整備することが必要です。それぞれのニーズを丁寧に聞き取るとともに、保育園・幼稚園と学校が連携し、適切で切れ目のない支援を進めることが重要です。